

9 ホストタウン

ホストタウンとは

ホストタウンとは、東京2020大会に向けて、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、特定の自治体が応援する参加国・地域の「ホストタウン」となり、人的・経済的・文化的な交流を図ることを推奨した国の制度です。

町田市は、南アフリカとインドネシアのホストタウンに登録し、東京2020大会に向けて、さまざまな機会を通じて、交流を深めてきました。

ホストタウン登録の経緯とこれまでの取り組み

(1) 登録の経緯

南アフリカとの交流のきっかけは、2015年7月にラグビーチーム「ブルー・ブルズ」がスーパーラグビー所属チームとして日本で初めて町田市で遠征を行い、町田市立陸上競技場で当時のホームタウンチーム「キャノンイーグルス」と国際交流試合を開催したことです。この試合以降、ラグビーワールドカップ2015での日本代表対南アフリカ代表戦のパブリックビューイングの実施や、駐日南アフリカ大使館行事への参加等の交流が始まりました。2016年6月にはラグビーワールドカップ2019や東京2020大会に向けてスポーツを通じて南アフリカとの交流をさらに深めるため、ホストタウンとして登録しました。

一方、インドネシアとの交流のきっかけは、2017年1月にパラバドミントンの日本代表とインドネシア代表が町田市で合同合宿を行ったことです。この合宿では、市民に練習を公開したほか、市立小学校でインドネシア代表との交流イベントを実施しました。

同様の合宿は2018年1月にも実施し、5月には東京2020大会の事前キャンプ実施に向けた覚書を締結しました。また、8月には空手、12月にはバドミントンの事前キャンプに向けた覚書を締結し、交流をさらに深めるため、2019年4月にホストタウンに登録しました。



市庁舎を訪問したブルー・ブルズ
(2015年7月)



パラバドミントン日本・インドネシア代表合同合宿
(2017年1月)

(2) 南アフリカに関する取り組み

①ネルソン・マンデラ国際デー

南アフリカとの交流は毎年7月18日の「ネルソン・マンデラ国際デー」(以下、「マンデラデー」とする。)を軸に行ってきました。

マンデラデーは、南アフリカのネルソン・マンデラ元大統領の功績をたたえ、国連が制定した国際デーです。生涯のうち67年間を人権と社会的正義を求める闘争にささげた同氏に敬意を表し、同氏の誕生日である7月18日に「67分間」の社会奉仕活動を行うことを呼びかけています。

町田市では、2016年度から駐日大使館と協力し、マンデラデー当日に清掃等の奉仕活動を行ってきました。

また、7月を「ネルソン・マンデラ月間」とし、市内5つの子どもセンターでの南アフリカ料理教室や国技であるラグビーの体験会、学校給食や市庁舎食堂での南アフリカ料理メニューの提供等、市民に南アフリカの文化を紹介する取り組みを実施してきました。

新型コロナウイルスの影響を受けた2020年度以降も、公式Twitterでの南アフリカについての投稿や、マンデラ氏が多様性に富んだ自国を「Rainbow Nation (虹の国)」と呼んだことにちなんで市庁舎を虹色にライトアップする等、市民に南アフリカを身近に感じてもらえるような取り組みを継続しています。

②国際協力機構 (JICA) との連携

南アフリカとの交流にあたってはアフリカ各国の開発援助に力を入れている



町田ダリア園での清掃奉仕活動(2018年マンデラデー)



市庁舎ライトアップ(2019年)



JICA作成教材「みんなが知らない南アフリカのこと」

る独立行政法人国際協力機構（JICA）の協力を得る機会がありました。

2019年度には、JICA南アフリカ支所長や南アフリカ出身留学生を招聘し、市民ボランティア「まちだサポーターズ」や市職員を対象とした勉強会を開催しました。

2021年度には、市立中学校全生徒に南アフリカについての教材を配付し、希望した学校ではJICAによる出前授業を実施しました。



武蔵岡中学校での出前授業（2021年6月）

③玉川学園高等部との連携

玉川学園高等部では、毎年希望者が南アフリカに渡航し、現地の人々と交流する研修プログラム「アフリカン・スタディーズ」を実施しています。

町田市のホストタウン登録以降は、ワークショップの開催や市内事業者とのコラボ商品の開発、写真展の開催等、ホストタウンのPRにご協力をいただけてきました。



「多重露光」により南アフリカと町田で撮影した風景を重ねたアート写真（市庁舎等で展示）

④その他

2018年11月に南アフリカスポーツ連盟・オリンピック委員会(SASCOC)と事前トレーニングキャンプ実施に向けた覚書を締結しました。

練習スケジュール等の調整の結果、町田市で事前キャンプを実施しないこととなりましたが、練習会場への視察の受入れ等を通じてSASCOCや駐日大使館と交流しました。



「まちカフェ!」でのワークショップ(2018年12月)

(3) インドネシアに関する取り組み

インドネシアとの交流は、事前トレーニングキャンプ受け入れと町田市立国際版画美術館へのインドネシア人アーティスト招聘を軸に行ってきました。

① トレーニングキャンプ受け入れ

2019年度には空手、パラバドミントンの東京2020大会テストイベントに向けたプレキャンプ受け入れを行い、期間中に市立小中学校や競技連盟との交流イベントを実施しました。

練習スケジュール等の調整の結果、オリンピックの空手、バドミントンについては町田市で大会直前の事前キャンプを実施しないことになりましたが、パラバドミントンについては2021年8月19日～26日に事前キャンプ受け入れを行い、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、練習見学やオンラインイベントを通して市民と選手等が交流しました。



② インドネシア出身アーティスト招聘

2019年9月、翌年の町田市立国際版画美術館『インプリントまちだ展2020 すむひと⇄くるひと - 「アーティスト」が見た町田-』（以下、「インプリントまちだ展2020」とする。）に向け、インドネシア出身の若手アーティスト、アグン・プラボウォ氏が来日し、作品制作のための視察やトークショーを行いました。

インプリントまちだ展2020は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による幾度の順延を経て、2020年6月9日から9月13日に開催しました。会期中の9月5日、9月6日には、「インドネシアフェア」を開催し、伝統楽器「ガムラン」のミニコンサートやロビーでのインドネシアグッズ販売等を行いました。



アグン氏の作品を鑑賞するプルナジャヤ臨時大使と石阪市長（2020年9月）



アグン氏の作品をデザインに使用したホストタウン フレーム切手

また、日本郵便株式会社の協力により、アグン氏の作品をデザインに使用したオリジナルフレーム切手「町田市×インドネシア共和国 ホストタウン フレーム切手」を作成し、市内郵便局等で販売しました。インドネシアフェアでも日本郵便による出張販売を行ったほか、オープニングセレモニーに在本邦インドネシア大使館臨時大使を招き、切手の贈呈式を開催しました。

(4) 両国に共通する取り組み

① 応援メッセージ動画

新型コロナウイルス感染拡大の影響により東京2020大会の1年延期が決定し、2020年度には選手団と対面での交流を行うことが叶いませんでしたが、メッセージ動画のやりとりを通して2021年度の事前キャンプ受け入れに向けた交流を継続しました。

■ インドネシア代表との動画のやりとり

2019年度のプレキャンプに参加したインドネシア空手、パラバドミントン代表選手による市への感謝と大会への意気込みを込めたメッセージ動画をいただいたことを受け、交流に参加した市民等によるインドネシア代表への応援メッセージ動画を作成しました。



パラバドミントンインドネシア代表
スルヨ・ヌグロホ選手



インドネシア代表への応援メッセージ動画

■ 南アフリカ代表との動画のやりとり

コロナ禍においても大会に向けて日々奮闘する南アフリカ代表に向け、授業での学習や現地での研修を通して南アフリカとつながりの深い市民等による応援メッセージ動画を作成しました。



南アフリカ代表への応援メッセージ動画

②町田市文化・国際交流財団との連携
 一般財団法人町田市文化・国際交流財団は、町田市における地域文化と国際交流の振興を図り、文化の薫り高く国際感覚豊かなまちづくりに寄与することを目的に設立された町田市の外郭団体です。同財団は、2021年7～8月に「南アフリカ・インドネシアと繋がって輪になろう！」と題し、町田市が両国のホストタウンであることをPRし、東京2020大会に向けて気運醸成を図るため、市民ホールや和光大学ポプリホール鶴川でのパネル展示や関連映画の上映、伝統楽器のコンサート等、両国の文化を紹介する事業をシリーズ化して実施しました。

コンサートガイドまちだ 2021年6月・7月 VOL.114



パネル展示(町田市民ホール)



ガムラン×星空コンサート(2021年8月24日)